

京まち工房



SPRING
情報交流誌

no.

26

(財)京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター

パートナーシップで進めるまちづくり

広がる交流 第2回京都まちづくり交流博



まちづくりに関係する様々な人が集い、新たな出会いの場での人や情報の活発な交流を通じ、更なるパートナーシップによるまちづくりを推進する「第2回京都まちづくり交流博」を開催しました。

平成14年2月の「第1回京都まちづくり交流博」は、パネル展示による情報発信、分科会での討論など京都におけるまちづくりの活力と可能性を探るものでした。

今回は活動されている皆さん同士の「交流」に重点を置き、それぞれの抱えている課題・情報を持ち寄り、話し合うことで、自分たちの活動を見直したり、新たな解決法を発見したりと、今後の活動に役立つ場として、参加79団体が情報発信や討論により活発な交流を行いました。

今回、従来のパネルによる情報発信に加え、実際に活動を行っている方々から、直接その活動内容について話が聞ける「お知らせデスク」の設置、テーマごとに活動の実践者が店主を務める「まちづくり屋台」による討論会、「ステージによる活動内容の発表」など、各団体にそれぞれ工夫を凝らした情報発信をしていただきました。

また、前回の交流博参加者やまちづくりフレンズの方々に企画段階から参加していただくなど、交流の輪も着実に広がりはじめているように思われます。

当センターにおいてもこれを契機として、様々な方々との連携を図り、更なるパートナーシップによるまちづくりを行っていきたく考えています。

広がる交流

「第2回京都まちづくり交流博」を開催しました



パートナーシップによるまちづくりを推進するため、京都市内で現在活動している各まちづくり団体へ呼び掛け、今後のまちづくりに関するテーマごとの意見交換や各団体が取り組んでいる活動内容の発表などを行いました。

日時：平成16年2月23日(月)～3月7日(日)
場所：「ひと・まち交流館 京都」地下1階
京都市景観・まちづくりセンター
(ワークショップルーム、交流サロン)

パネル展示

平成16年2月23日(月)～3月7日(日)

京都市内において様々な分野でまちづくりに関する活動を行っている79団体から、その取組内容について、パネルによる情報発信を行っていただきました。

今回、約500人の来場者があり、熱心にその活動の内容について、メモを取られる方や、そのパネルの前で意見交換をされているグループの方など、前回同様、活気に満ちた様々な交流がありました。



お知らせデスク

平成16年3月6日(土)～3月7日(日)

パネル展示による情報発信に加え、実際に活動を行われている方々に各パネルの前で、その活動の内容について、直接、来場者へ分かりやすく説明していただきました。



学生のグループが、来場者の方に自分たちの活動を熱心に説明したり、質問を受けたりと会場のあちこちで、様々な交流がありました。

ステージ発表

平成16年3月7日(日)

パネル展示による情報発信だけでは伝わりにくい活動内容について、参加団体の皆さんにステージ上で、スライド等を用い、分かりやすく説明していただきました。



まちづくり屋台

平成16年3月7日(日)

まちづくりに関する12のテーマについて、それぞれの分野で経験豊富な方々が店主として屋台を運営し、テーマに沿って、ご来場いただいた皆さんと共に話し合いました。

【まちな居場所づくり】

まず、店主の運営するバザールカフェの紹介があり、様々な人が気楽に集まれる場所として、ボランティアさんの協力を得て運営されているとのことでした。

まちな居場所として気軽にいろいろな人が集まれる場所を目指すのは意外と難しいのですが、国籍が違ったり背景や常識が違う人同士が、どう共存するのかを考えるのが大切であるということが話し合われました。

【福祉とまちづくり】

地域にお住まいの方が、その地域に住み続けるためにどんな活動が必要なのかということテーマに、屋台に来られた方の学区の話や活動について話し合いが行われ、住んでいる人が常に自分のまちなことを振り返って自分のまちな何が大切かということを考えていかなければならないという報告がありました。

【まちづくりの主役は団塊世代】

戦後の日本の高度経済成長を支え、常にかんがってこられた団塊の世代に、まちづくりでいかに元気がかかっているかということ 키워ドに話し合いが行われ、企

業人としてはリタイヤするが、人間としてのリタイヤはまだなので、その能力をまち育てに大いに活用していただきたいという報告がありました。

【ストックを活かしたまちづくり】

今回、パネルによる情報発信に加え、「飲み屋再生軒」、「町家おでん」などお客さんを飽きさせない趣向を取り入れ、先人から引き継いできた大切な文化資産である京町家の保全・再生に取り組む「京町家ネット」の活動内容について報告していただきました。

【手づくり観光とまちづくり】

「手づくり観光」というテーマで商業者、観光業者等の立場から、今後の観光とまちづくりの関わり方について意見交換が行われました。

ひとつのものの中には価値がたくさん含まれていますが、京都では歴史・伝統が強調されてきたことによって、見えなくなっている部分があります。

京都の今の魅力を伝えるには、身近な生活環境の中に埋もれている文化の物語を結びつける必要があります。

そのためには地元の生活について語る人、歴史や文化を分かっている地元の方が売り場に立ち説明するなど、生身の歴史を語る人とのふれあいの重要性が認識されました。

【取組を知ってもらう「広報活動の工夫」】

まちづくり活動団体は、それぞれの思いを持って活動していますが、その思いを伝える媒体としての広報活動について話し合わせ、広報媒体である「ニュースレター」と「チラシ」を例にしたその用法の違いや表現方法の工夫などに関しての報告がありました。

参加者の持ち寄った「ニュースレター」や「チラシ」について、具体的な改善点や工夫してある点などをチェックして話し合われました。

【交通屋台「ひとまち往来」】

「物流」、「路面電車」など10個用意されたメニューの中から、「自転車」、「バス」、「歩行者」の3つについて意見交換が行われました。

バスの運行に関しては、利用者への分かりやすい情報提供や利用者の声の反映、また自転車についても路上放置、交通マナーなどの問題、歩行者については、楽しく歩けるまちづくりの実現に関してどう考えたら良いのかなどの報告がありました。



【産業・文化とまちづくり】

危機的状況にある伝統産業の振興に関して、伝統産業を理解してもらうための情報戦略の必要性や、文化の担い手としての子どもに対する教育の重要性が意見として出されました。

また、各地域はそれぞれの地域に根ざした歴史、文化があるので、それを住民同士が大切に守り活用し、受け継ぐことによって、どの地域も個性的で文化あふれるまちづくりができるのではないかと、意見もいただきました。



【まちづくりとNPO】

地域コミュニティに関する問題等を契機に組織されるNPOについて、ボランティアの在り方、組織の在り方など運営に関して意見交換が行われました。

【景観づくりはまちづくりの出発点】

「景観というのは、まちづくりにとってどういう役割を持っているのだろうか」ということを議論し、京都の町並みというのは、まさに人の暮らしの中で成り立っていて、人の暮らしそのものといえるのではないかと意見が出されました。

一方、今の建築基準法では京都の伝統的な町家は新築できないが、もっと自由に伝統的な町家を作れるような法制度が求められているという報告もありました。

【子どもとまちづくり】

世界水フォーラムをきっかけに子どもたちと川やまちの再生を願って一緒に活動しているという店主の活動の紹介がありました。

屋台では、最初に参加者の身近にある川についてのイメージや川に対する思い出をそれぞれ発表し意見交換をしました。

ひとりひとりの感じ方は子どもと大人でも、また大人同士でも異なりますが、自分の身近な「川や流域」について一緒になって考えることで、暮らしの場である「まち」を考えることにつながるでしょう。

子どもたちへの環境教育が進められていますが、「教える」のではなく「感じてもらう」のを大切にしていきたいと話し合われました。

【地域とマンションのコミュニケーション】

最近よく問題になるマンション建設と地域の関係について、参加された方々の各学区での具体的な取組事例をご紹介いただきながら、その内容について参加者全員で話し合いました。

マンション建設に際しての、地域との関係づくりを示したマニュアル作成の事例紹介など様々な観点から議論が行われましたが、最終的に地域コミュニティの問題が大きいということになり、その問題を解決するためにどこが中心的な役割を果たしていくべきなのかという意見がありました。

あなたのまちづくり拝見

藤城学区のまちづくり

住民主体のまちづくりを紹介するこのコーナー。

今回は、地域活動を支える自治会をつくって一緒に活動を担える関係を築き、若い世代や子どもたちとともに地域活動に取り組む藤城学区のまちづくりを紹介します。



新しいまち藤城

桃山丘陵の中腹に位置する藤城学区。眼前には伏見の市街地が広がり、四季折々の自然の姿が目を楽しませてくれます。

昭和40年代から宅地開発が進み、多くの方がこの地に移り住んで来られ、緩やかなコミュニティが形成されている地域です。

昭和61年に分区した藤ノ森学区の「藤」の字と、学区の南側にある伏見桃山城から「城」の字をとって藤城学区と名付けられました。平成18年に20周年を迎える、比較的新しい地域です。

自治会づくりはまちづくりの第一歩

「この度、当藤城学区に転入されましたことを心から歓迎申し上げます」。

新しくこの地域に移り住んで来られた方の家に、地域のことを紹介する案内チラシを持って訪ねます。自治会への参加を呼び掛けるためです。このチラシには、ゴミの出し方、各種団体の活動や公的な施設の連絡先など、この地域で暮らすためのお役立ち情報が掲載されています。

自治連合会会長の出口常太郎さんは「地域活動を支える自治会をつくるのがまちづくりの第一歩。まずは地域のことを知ってもらい、そこから地域づくり、まちづくりを一緒に考えたいと思います。地域に入って来られる最初の段階から関係を築くことが肝心です」とおっしゃいます。

新しく開発された地域で、まだ住んでおられる方が少な

い地域では、自治会ができるまで自治連合会がサポートし自治連合会に入っていただきます。この間に移り住まれた方ではほとんどの方が自治連合会に参加されることになりました。

コミュニティづくりを目指す

現在自治会がない町内にも呼び掛けは欠かしません。毎年恒例の夏祭りや運動会（体育振興会主催）やもちつき大会（少年補導主催）の時には自治会がない町内からもたくさんの方が参加されており交流が深められています。「こういう機会から日常のつながりができれば」と期待が高まります。

マンションにお住まいの方との関係づくりはこれからの課題です。「お住まいになっている方ももちろんのこと、マンションオーナーとの関係を築くことが大切」と意気込んでおられます。



もちつき大会



夏祭り

学区内の子育てサークルに集う

若年世代が多い藤城学区では、各種団体の取組でも子どもたちを対象とした取組や、若い世代の活躍が見られます。

学区内にある京都教育大学附属養護学校の教室を借りて、平成15年6月から毎月、学区内の子育てサークルを行っています。学区の社会福祉協議会が主催し、民生児童委員会も協力しています。子育て世代の若い親御さんや、かつて子育てを経験した方々が集い、常時、概ね30人が集まる人気だそうです。



子育てサークル

ふれあい学ぶ場「ふれあい学習館」に集う

子どもたちと地域の方が昔の遊びを通じてふれあい学ぶ場、「ふれあい学習館」も毎月2回、平成14年9月から続けています。地域の方が講師になってのはさみ将棋やコマ回し、あやとり、おじゃみに坊主めくり…。地域の老人クラブである「実年会」とPTAが協力しています。「将棋のコマは戦った後に一緒に箱に片付けるやろ。戦った後は仲良くしようということなんや」。楽しみながら礼儀も身に付けます。ペットボトルロケットをつくるなど、簡単な理科の実験も大人気です。

取組のきっかけは、平成15年4月の学校五日制の導入でした。子どもの学力低下を心配した実年会の方々が、子どもたちの自習の場をつくろうと呼び掛けたのですが、子どもたちからはもっと自由に遊びたいという声が上がりました。それなら昔の遊びをしようということで始まったのがきっかけです。1年6ヶ月たった今では、この場所に宿題を持って来る子どももいて、自然と自習の場にもなっているそうです。



ふれあい学習館

情報を発信しつづける

藤城学区では各種団体と小学校が連携して「藤城ふれあい活動推進協議会」という組織を立ち上げています。

平成15年9月から「藤城やまざくら通信」というニュースを発行して学区内の全戸に配布しています。各種団体の取組や小学校でのふれあい活動が紹介されており、お互いに今何に取り組んでいるかがよく分かって良いそうです。

活動の発信を続けていくことが大切だと毎月発行しているニュースは、現在22号を数えました。新しくホームページもでき、情報発信の活動が充実してきました。



シルバーのつどい

まちづくりは人づくり

「この地域に暮らして良かったなと思っています。まちづくりは施設などのハード整備も大切だけど、地域に住んでおられる方にいかにこの地域について考え、この地域を大事に思ってもらえるか、またそういう人を増やすことが大切だと思います。ここを「ふるさと」だと思い、安心して住み続けられるようにしていければと思います」と出口さん。

新しい学区である藤城も、この地域で育った子どもたちにとっては「ふるさと」です。藤城学区では前出の各種団体のほかにもたくさんの団体が連携しながら、それぞれの特色ある活動を展開し安心して地域で住み続けられる基盤をつくっておられます。

地域に愛着と誇りを持ち、次世代を担う子どもたちとの取組や情報発信の取組など、それぞれの活動が力強く継続される藤城学区の活動が印象的でした。

京のまちの今昔物語

撮影場所：東山区川端正面通東入ル正面通（西を望む）

この写真は、昭和初期における東山区の正面通を撮影したものです。



昭和初期



現在

「京のまちの今昔物語」では、昔の写真から、現在の京都について考えることができると思います。皆さんの自宅のアルバムに、かつての京都をしのぶ古い写真がありましたら、ぜひお貸しください。

地域まちづくりセミナー

あなたのまちのまちづくり

自分のまちのいいところ、気になるところ、これから取り組んでいきたいこと。まちを振り返り将来像を学区ごとに話し合いました。今年度のセミナーは、伏見区の深草地域の5学区と北区の西陣地域の3学区で開催しました。

伏見区(深草地域)版(発表順)

藤城学区

※藤城学区からはたくさん参加して下さったので2班に分かれています。

〈A班〉

「ふれあい、支えあいのある住宅地清潔で安全で安心して暮らせるまちづくり」を目指し、今後もここに住み続けたいと思えるようなまちにしたいと話し合いました。

学区内のいろいろな課題を考えるための組織をつくって学区全体の盛り上がりをつくりたいと思います。そこで、地域のコミュニティの実態を調べたり、学区のマップをつくったりしたいという意見が出ています。

また新しく地域に移り住んで来られる方に藤城学区はどんなところかを紹介し、地域活動と一緒に取り組めるよう自治会への加入を呼び掛けたいと思います。

〈B班〉

「わがふるさと藤城。安心して暮らせる地域づくり」をテーマに話し合いました。藤城学区は新しい地域ですが、今後「ふるさと」だと思って住み続けてくれる人を増やしたいと思います。

藤城では毎月のように子どもたちのためのイベントを開催しています。地域をあげて子どもたちが健全に育つ環境づくりに取り組んでいます。何かあれば集える場として児童館があればと思います。

また、学区内を走るバスがほしいという意見がありますが、自分たちでもできることとして、坂道で困っている方に声を掛けて車を乗り合わせるとか、近くの店に宅配サービスに協力してもらえないかと話し合いました。

深草学区

深草学区は最高のまちだと思います。

歴史が深く、交通や施設などが充実して便利な上に、大人も子どもも楽しく過ごしています。疏水沿いは桜並木になっていますので、若い方に疏水に親しみ深草を愛していただくために「子どもと歩く会」をしたいと思います。

また、4年前から小学生と高齢者が一緒に昔の遊びをしたり落ち葉遊びをしてふれあう機会を年に3回行っています。

地域には課題もたくさんありますが、いろいろな立場で集まって話し合える場を持てればと思います。

今回のようなセミナーをPTAにも呼び掛けて実施すれば、地域の活動に若い方も参加されるのではないかと思います。

藤ノ森学区

私たちの目指すところは「ビューティフルライフ」、「アイラブ藤ノ森」ということで、美しい生活、美しいまちを目指し、藤ノ森に愛着を持ちたいと思います。4回を通じて話し合い、まちづくりと人づくりは関係が深いと気づきました。そのために人と人との交流を大切にしながら、少しずつ歩んでいこうと思っています。

まずは、学区内の歴史ウォーキングをして、地域の中で発見をしたいと思っています。その時に大学生や地域の方など、サポーターを募れば人の集まる場もできて良いのではないかと考えています。

砂川学区

地域の活動の世代交代を考え始めなければいけないと思います。経験の長い方がうまく勇退できるようにするた



めにも、定年になられてこれから地域でがんばろうという元気な方の顔が見えるよう、地域のイベントにもっと参加してもらいたいと思います。

60代の盛り上がりをつくって、50代、40代、30代へと広がりをつくりたいと考えています。

会議などの場に副会長も参加できるようにすれば、60代の方も地域活動に入りやすくなるのではないかと考えています。そのためにもみんなが集まれる拠点があればと思います。

稲荷学区

私たちのまちには自治連合会がありません。今まで何度も挑戦しましたが、できないまま現在に至っています。自治連合会はすぐにはできないので、まず「まちづくり」で盛り上がりをつくりたいと思います。

「まちづくり委員会」をつくって、地域の歴史や課題などを、若い世代とも一緒に話し合いたいと思います。

稲荷学区は高齢化が進んでいる地域ですが、逆に考えれば高齢者が住みやすい地域だともいえると思います。リタイア後の世代にも活動の担い手になってほしいと期待しています。

また、学区内の稲荷大社にも協力を呼び掛け、一緒に活動を進めていけるようにしたいと思っています。



北区(西陣地域)版

紫野学区

紫野学区は船岡山を除いては語れないところです。また、とても便利で住み良いところですが、駐輪・駐車問題、高齢化問題、船岡山があることによる治安の問題などもあります。それぞれの問題や課題について、どのように取り組んでいこうか話し合い、紫野学区では、まちの活性化に向けて、「元気なまちづくり」をしようということになりました。

そのはじめの一歩として、地蔵マップを作ろうという話をしました。船岡山には、お地蔵さんが多く、町内のお地蔵さん以外に450体くらいはあるそうです。そこで、地蔵マップを作って、どこにお地蔵さんがあるのか訪ね歩いたり、作ったマップを小学生の学習に使ったりなどできたら面白いのではないかという話をしました。実は、昨年度から発行しているニュースにもお地蔵さんの話を載せており、みんな一丸となって紫野学区を盛り上げるために取り組みたいと思います。



また、将来的には、紫野学区でホームページを設け、そこへ載せていけたらという話をしています。

柏野学区

柏野学区は、学区内のだいたいの人をみんなが知っているようなまちですが、高齢化が進んでいるので、高齢者の方をいかに大切にしていくかということを話し合いました。

柏野学区には、昔からの町並みが残っており、特に若広町は常に映画のロケにでてくるような通りです。しかし、道路が狭く、消防車や救急車が通れないという問題があります。そこで、パトロールに力を入れ、家の前に物や自転車、燃えやすいものは置かないように注意しています。ボランティアによる配食の活動で、お手伝いの小学生を募集して、お年寄りにお弁当を届けてお話をし、喜んでいただいたということもありました。高齢化社会になっていますが、若い人と協力でまちづくりに励んでいけるところだと思っています。

柏野学区のはじめの一歩は情報を伝え受け取る仕組みづくりです。学区内に目安箱を設置していますが、なかなか活用されていません。また、学区同士での定期的な情報交換も必要ではないかと思っています。アドバイザー的なことを双方に行っていくために、お互いの情報つなぎをしていけたらと思います。



衣笠学区

衣笠学区は北に衣笠山を抱え、また、平野神社もあり、緑豊かな環境の学区です。また、学区内に大学もあり、学生のまちです。そのため、身近に自然を感じられる豊かなまちづくり、学生と地域が一緒につくりあげるまちづくりをしていきたいという話をしました。その一歩として、住み良い環境を維持していくための緑のマップ作りをしようという話が出ました。

その他に、子どもたちが思いっきりボールを蹴ったり、キャッチボールができる公園の上手な利用など、もっと、いろんな工夫ができないか、また、自転車の交通マナーの改善や駐輪所の問題など生活環境に関わる問題についても話し合いました。

地域に関わる自然環境、文化環境など、様々な環境についての再発見を目的とした、みんなが利用できるマップ作りができたと思います。また、大学との連携では、お互いに協力して、お互いに利益を得るように、また、多世代との交流の中からまちの活性化につながるものを見出せたらと思います。

平成15年度賛助会員

【個人】

芦田 英機	今村 寿子	岡崎 篤行	亀井 孝郎	寿崎かすみ	寺田 敏紀	西田 祐司	平家 直美	山本 耕治
石川 貴洋	伊本 俊男	岡崎 和夫	川口 東嶺	鈴木 茂雄	寺田 史子	長谷川梅太郎	星川 茂一	湯浅 博央
石田 達	岩本 文夫	岡本 晋	木村 寿夫	炭崎 勉	中川 慶子	長谷川忠夫	正木 敦士	吉田真由美
石原 一彦	上原 任	奥 美里	木村 賀正	園 孝裕	中谷 弘	濱野 全助	南 寛	渡邊 隆夫
井手 正己	上村多恵子	奥山 脩二	光田 康宏	高木 勝英	成瀬 英夫	林 建志	宮本日佐美	
糸井 恒夫	梅本 武史	小山 選一	坂本 登	高木 伸人	西川 隆善	春名 秀雄	森澤富久造	
稲石 勝之	宇高 史昭	海堀 安喜	佐竹 和男	田中 治次	西川 壽磨	人見 米一	山口 勝広	
稲本 浩一	大島 仁	桂 豊	塩谷 孝雄	勅使河原拓	西島 篤行	平竹 耕三	山本 一宏	
犬伏 真	大森 壽人	上林 研二	下蘭 俊喜	寺田 恵子	西嶋 直和	藤本 春治	山本 一馬	

【団体】

大阪ガス株式会社京滋事業本部	京都リサーチパーク株式会社	株式会社ジェイアール西日本伊勢丹	株式会社フラットエージェンシー
大阪ガス株式会社近畿圏部	株式会社京都科学	株式会社ゼロ・コーポレーション	NPO法人マンションセンター京都
株式会社大林組京都営業所	株式会社クカニア	都市居住推進研究会	ローム株式会社
オムロン株式会社	NPO法人京滋マンション管理対策協議会	西日本電信電話株式会社京都支店	株式会社ワン・ワールド
京都駅ビル開発株式会社	京阪電気鉄道株式会社	花豊造園株式会社	

京町家の保全・再生の事例

～居住物件としての
京町家の再生～

風良都 (ふらっと) (北区紫野西御所田町)



北大路堀川を100mほど西へ行ったら、北大路通りに面して「風良都(ふらっと)」があります。「風良都」は、見学・貸スペース・長期宿泊に利用できる京町家として平成15年11月にオープンしました。「風良都」は、株式会社フラットエージェンシーが、空家であった京町家を所有者から借り上げ、改修した

上で賃貸借物件としてオープンされたものです。

オープンに至った契機としては、まず「町家に泊まりたい」という観光客のニーズが高まってきたこと、そして多くの京町家所有者の方々に居住物件としての再生を促したいということも挙げられています。「風良都」の敷地面積は約25坪で、京都市内に数多い京町家の中でもほぼ平均的といえる大きさです。株式会社フラットエージェンシー代表取締役社長の吉田光一さんは、「京町家を商業店舗として再生・活用する動きは定着してきたといえるが、これからは京町家を居住物件として再生することが求められている」とおっしゃっています。

「風良都」として再生した京町家は、昭和初期の建築で、かつては所有者の方がお住まいになりながら下宿屋として、またクリーニング屋として使用されていました。その後は空家として長い間放置されていました。そのために雨水が入り込み、土台は腐ってなくなり、柱も相当傷んでい



改修前の通り庭の様子



工事中

ジャッキアップして
柱の根継ぎをしました

たそうです。部分的には7～10cmも下がっており、ジャッキアップをして根継ぎが施されました。基本的には元の姿のまま再生することが目指されましたが、1階は竹材を使用したフローリングとなっており、また中庭も現代風の開放感のあるものに作り変えられました。通り庭・火袋には以前のままの荒壁が残されており、生活の歴史を積み重ねてきた京町家の佇まいを感じ取ることができます。

室内のしつらえには竹材がふんだんに使用され、美しさやコストだけでなく、材料をめぐる環境問題にも配慮した造り

になっています。設備面では、トイレと洗面所、洗濯室は傷みがひどかったので全面改装になりました。改修は建築設計士さんと綿密に打ち合わせて進められたそうで、建築士さんとの共同作業が非常に良い空間をもたらしてくれたと吉田さんはおっしゃっています。これから改修・活用を考えておられる方々も、ぜひ良い建築士さんとめぐり合っ

てほしいとのことでした。「風良都」にはお風呂はついていません。その代わりに「おふろまっぷ」が用意されていて、周辺に数多くある銭湯を利用してほしいとのこと。銭湯だけでなく、この周辺には京町家を活用した店舗も数多くあり、そうした店舗の紹介もされています。こうしたまちなかを歩いて散策できる仕掛けを通じて、「風良都」単体の体験だけでなく、地域の中に息づく京町家を体験してほしいとの思いが込められています。

これからの展開として、吉田さんは、「風良都」のような事例を参考にさせていただいて、所有者の方々が京町家を居住物件として再生していく動きが促進さればうれしいとのこと。オープン以来、所有者の方々だけでなく、他府県からの問い合わせも多いそうです。株式会社フラットエージェンシーでは、今後も京町家を住居として再生していく取組を進めていきたいとのことでした。当センターも、地域に根ざした居住空間としての京町家の再生はこれから非常に重要になってくると考えており、こうした取組を応援する新たな展開を図っていきたくと考えています。

工事後



フローリングになった1階から庭を望む



改修後の通り庭と火袋

『まちづくり交流』

龍谷大学 Ryukoku Extension Center (REC)

龍谷大学は、新しい大学像追求を目指し平成3年に大学開放拠点として瀬田学舎に「REC」を設置されました。主として産官学連携事業、生涯学習事業を推進し、平成13年には10周年を記念して、深草学舎に「REC 京都」を開設されました。社会に開かれた産官学民の交流拠点として展開されている龍谷大学RECの、現在の活動やこれからの展開などについてご紹介します。

RECの現在の活動

龍谷大学RECは、地場産業の活性化を目指した産官学連携事業、地域の人々に系統的な講座を提供する生涯学習事業、並びに学生ベンチャー育成事業を中心に活動を展開しています。産官学連携事業では、技術相談を核として大学初のインキュベーション施設^(注1)を活用して、ベンチャー育成や新たな技術開発を積極的にサポートしています。生涯学習事業では、RECコミュニティカレッジとして年間300に及ぶバラエティ豊かな講座が提供され、7,000名をこえる受講者を迎えています。

地域へのアプローチ

REC京都では、伏見で活動されているバイタル伏見の活動に関わられたり、ゼミ活動や学生のビジネスプランコンテスト「プレゼン龍^{ドラゴン}」の指導を通じて地域の商店街に関わりを持ってきました。今後は商店街やバイタル伏見の方々との日常的な交流を通じて、活性化を目指した具体的な提案や学生コーディネーターも追求したいと考えておられます。

また高校大学連携プロジェクトとして、滋賀県石山高校の生徒を大学に迎え、連続講座として「数学の世界への誘い」、「異文化コミュニケーションのすすめ」を開講されています。

産学連携、生涯学習、学生ベンチャー育成や教員の研究



REC 京都



成山さん、松山さん

活動についても、地域での実践が重要であり、今後も積極的に地域に関わっていきたくて考えておられます。

RECの担うべき社会での役割

龍谷大学は、大学の使命として教育・研究と普及（社会的貢献）を掲げています。教育や研究によって生まれる成果や蓄積資源を社会に還元していくことも、大学に求められる重要な機能と主張されています。この普及機能を発揮するために、交流拠点としてのRECを設置したとのことです。最近、南区地域経済懇話会に京都南部における唯一の総合大学としてオブザーバー参加を要請されたことから、RECのコーディネート機能に期待するところが大きいのです。RECとして、こうした地元商工業者や団体の方々との日常的な交流を通じて、地域の商店街や中小企業へのサポートを積極的に展開する方向が確認されています。

RECの課題とこれからの展望

技術相談から始まる、どちらかといえば受身の産学連携システムは一定の評価を受けており、これに加え教員のシーズ・企業ニーズの発掘を通じたマッチングという能動的な産学連携の実現に向け活動を展開しています。このため、「理工学部教員シーズ集」の編集、会員制ネットワークとしての「BIZ'NET」が設置されています。BIZ'NETでは、教員のシーズ発表研究会を通じて異業種会員企業での事業化をめざし、経済産業省などの補助金事業等につなげていく流れを作ることによって、中小企業支援を図りたいとされています。ベンチャー育成事業では、平成16年度より学生向けの起業支援ブースが設置され、学生ベンチャーの輩出に向け、積極的サポートを進めたいとされています。また、生涯学習事業では、在野の研究者・専門家の発掘に努め、多彩なコミュニティカレッジの展開と地域文化を守り育てる機能、大学教育にフィードバックする機能も追求したいとされています。

新しい産官学連携の形を模索されておられる龍谷大学RECの事業が、新しいパートナーシップによる地域のまちづくりにつながることを期待しています。

(注1) インキュベーション…起業支援

(注2) バイタル伏見………ニュースレターNo24 まちづくり提案参照



ニュービジネスの動向

このコーナーは、新しく立ち上がった、もしくは企画段階にある新発想のビジネスの動向についてのインタビューによる紹介です。

大阪市北区中津 芸術文化村 『ピエロハーバー』



(有)ワン・ワールド・ジャパン
ピエロハーバー開港準備室
室長 仲 風見さん

今年の6月、大阪市の北区中津に新たな芸術創造拠点が生産する。国道176号の高架下にある空き倉庫を改装、小劇場やアトリエ、スタジオ、フリーマーケットなどを設置し、若手芸術家の育成など芸術文化の活動拠点づくりを試みる仲風見さんにお話を伺いました。



芸術文化村「ピエロハーバー」を企画したきっかけは何ですか？

現在の芸術文化活動は、最近の経済情勢を反映し、各地域における相次ぐ劇場の閉鎖など、まさに閉塞状況にあります。この活気のない大阪文化をどうにかしたいということで、まず、兵庫県の尼崎に若者が中心となって活動できる劇団を有志で新たに作り直しました。

とりあえず若い人を引き寄せ、若者がもっと元気になれる仕掛けができないかということで、震災で壊れたビルの屋上のプールを若いボラン

ティアスタッフと協力して修復し、若者が自由に活動して楽しめるスタジオをつくりました。

今の若い人々は、伝統芸術というものにはほとんど無関心で、自分が興味を感じるものだけに反応します。ですから、若者がここに来れば、毎日何か新しいことをやっていますごく楽しく過ごせるまた、自分も自由に参加できて楽しいなどということを実感してもらえらる仕組みづくりを企画しました。地域の方々などにも来てもらい、若者が自由にミニコンサートを行うなど絶えず若者を飽きさせない企画が成功し、現在、閑散としていたまちは、若者の活気にぎわっています。

この企画がうまくいき、ここ中津でまた何か人を集める企画をやってみないかという地元の方からお誘いがあり、昨年4月ぐらいから準備を始め、今年の6月からオープンすることになりました。

コミュニティビジネスへの取組についてお聞かせください。

オープンした段階では、まだ、それほどビジネスにはならないが、ピエロハーバーに若い人がたくさん集まり、地域との交流が進めば、地域も活性化し、これに関連したビジネスが生まれると思います。

大衆演劇、地域の人が企画することなど人が集まる仕組みづくりがで



ければ、地域に派生する再生ビジネスも盛んになってくると思います。

また、商店街の空きスペースを活用したフリーマーケットの開催など周辺地域との連携も考えられ、5年でまちの様子はがらりと変わるのではないでしょうか？

地域住民さんとの関係はどうですか？

地域の方々もこの企画には興味を持っておられ、汚れた倉庫の掃除のお手伝いや、食事の差し入れ、冷蔵庫や流し台の提供など、様々な面でご支援いただいています。

また、昨年夏には、地域の方々と協力してビアホールを開催するなど、地域の方々との交流も着実に深まっています。



将来の展望についてお聞かせください。

次の段階として、この地域には、芸術文化活動をしている他の団体も多いので、こういった団体との連携や、インターネット等を使い、この地域から元気が出る大阪の芸術文化を発信していきたいと思っています。

また、現在、尼崎と中津での取組を行っていますが、あと京都など周辺地域や海外にもネットワークを拡大し、芸術文化の発展について戦略的な取組ができればと考えています。

お問合せ先
〒531-0071
大阪市北区中津6丁目1-13 中津ビル4F
TEL 06-6453-8883
URL : <http://www2.odn.ne.jp/sugar-town>

私と京都



京町家再生研究会理事長
大谷孝彦

冬景色の思い出から

煉瓦造りの2階建てが印象的だった冬のキャンパスで受験手続きを済ませたのは今から40年少し昔のことである。幸い大学の試験をパスして京都で建築に関わる活動の拠点を置くこととなったが、京都市内に住居を構えたのは、実は学生時代の下鴨での下宿生活と上賀茂の農家の借家に住まった1年間とだけである。

鴨川沿いのその農家では冬場は「すぐき」を漬けていた。木樽の中のかぶを押さえる天秤棒の先端の重しに当時でもコンクリート試験のテストピースがぶら下げられていたのが少し場違いに思われた。漬け上がったすぐきのかぶを室で発酵させた少し酸味のある独特の味は、京都らしい、きわどく微妙な味であると思う。すぐきは室出し直

後の新鮮なものが特に美味しいと思う。そして、その年の気候の様子でかぶのでき具合が変わり、また、人の手によって作られるわけだから、正直なところ年によって微妙な味の当り外れもある。それが自然なのであって、毎年暮れに「すぐき」を求めに上賀茂まで出かける楽しみがある。京都の漬物は決して単なる保存食ではない。

また、当時はよく雪が積もった。目覚めた朝、一面の銀世界の日には降り積もった新雪にわざと大きな足跡を付けながら、金閣や銀閣を訪れ、静かな雪化粧の景色を眺めて時を過ごした。雪化粧はなぜ美しく、感慨深いのか。一面を白で覆い尽くす無垢な美しさがあるが、京都のような歴史都市では白い雪の下に隠された見えないものを無意識の内に意識する、そういうアンビバレントな感性が働くことによって、より奥行き深い美しさを感じるのではないか。最近では雪もほとんど積もることがなく、地球や都市の温暖化が社会の大きな変化の一つの象徴的な話題となっている。

その後、大学のキャンパスも煉瓦建物がなくなって、コンクリート造の大きな建物が密集し、程よく歩けた通路も、駐車車で満杯である。万博の頃や、バブル景気と言われた時代を通じて建築設計の仕事が続けて来たが、その間、京都の町が随分変わって行くことに余り関心を持つことがなかった。最近、

環境や景観の問題が改めて取り上げられる時代となって、気が付いてみると、本当に京都も随分変わってしまったと思う。以前は6階にある事務所の窓から東山の大字が見えた。屋上からは五山の送り火の全てを見ることができた。何年か前からその全てが見えなくなっている。

以前は木造の伝統建築である町家が軒を列ねた落ち着いた美しい町並みがあった。受験の折には、友人と二人、こじんまりした町家旅館に泊って、魚の大きな切り身一切れがおかずという京都風(?)の弁当を持って、試験場へ行ったことを思い出す。そのような町家がだんだん壊されて、その後にはばかりでかいマンションが建てられている。送り火どころか、周囲の山そのものがほとんど見えない、なんとも見苦しく、息苦しい町となってしまった。

実は、ここ10年程、町家の再生保存のNPO活動に足を踏み入れ、いつの間にか、それにのめり込んでいる。ごく最近になって、やっと歴史的ストックとしての町家を活かした町づくりや都市再生という言葉が聞かれるようになった。今からでも遅くは無い。美しいまちづくりを目標として、今しばらく、京都を人生活動の拠点にしたいと思っている。

真に美しいまちづくりには、今に至る歴史性の意味に眼をやる感性を共有することが必要であろうと思う。

《センター解説アワー》

市民の皆さんとのパートナーシップによるまちづくり ～京都市市民参加推進条例の制定～

京都市は、市民の皆さんの知恵と力を生かした市政の推進と個性豊かなまちづくりを進めるため、これまでの市民参加の制度的基盤の総仕上げとして「京都市市民参加推進条例」を政令指定都市として初めて、平成15年8月に施行しました。

条例には、「協働の精神」などの基本理念を掲げるとともに、市民参加を進める「市の責務」として、情

報の提供・公開、説明責任、参加機会の確保や市民参加の視点に立った職務遂行などを定めています。

また、「市民・市民活動団体の責務」として、市政への参加やまちづくり活動への積極的な取組、市との協働・市民相互間の協働などを定めています。

更に、市民参加を進めるための具体的な取組として、審議会の公開や

委員の公募、ワークショップの実施や、計画などへの市民意見の反映を行うパブリック・コメントなどの市政への参加手続きを規定するとともに、市民による自主的なまちづくり活動の支援を定めました。

京都市では、今後とも、この条例を基礎に、市民参加のより一層の推進が図られます。

センター語録

私の住むまちは、大阪でも屈指の繁華街から歩いて10分程度の距離でありながら、商店街があり、その周辺には古い木造長屋が残っていて、まだまだ下町風情が残っています。でも、気付けば、私の子どもの頃よりもマンションやビルが増え、まちも変わっています。いつかはこの残された長屋もマンションに建て替わってしまうのでしょうか。センターに来てから、そんな自分のまちに気付くようになり、その変化をまちあるきをして自分の記憶に留めておきたいと思うようになりました。

大学の課程を終えてすぐ、今年の4月からセンターで働き始めました。

もともと都市解析の研究室に所属していて、学内での研究も日本ではなく海外の都市がテーマでした。まちづくりに関して何か活動をしていたという

わけでもなく、ワークショップの言葉の意味すら知らず、自分の大学のある京都のことも、生まれ育った地域のことすらよく知りませんでした。

それこそ右も左も分からないまま働きはじめてしまったわけですが、「まちづくりって面白い」ということに気付いただけでもセンターに来て良かったと思っています。

仕事の経験だけでなく、出会い、そしてこういったまちに対する考え方の変化も得られ、また、その中でいろいろ失敗もしてきましたが、全部大切な私の財産となっています。

まだまだ一人前とは言いがたい私ですが、このセンターでの経験を通して成長し、またそれを自分自身だけでなく、ひととまちの将来に役立てていきたいと考えています。

(景観・まちづくりセンター事務局 N・N)

京まちコーポ no.11



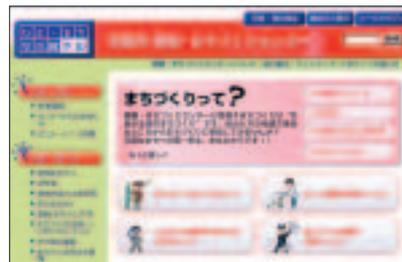
センターからのお知らせ

京都市景観・まちづくりセンターホームページ

<http://machi.hitomachi-kyoto.jp>

センターの取組内容をはじめ、まちづくりに関する様々な情報を発信するホームページ。

皆さんの地域のイベント情報、まちづくり情報も掲載します。メールマガジンの登録も受付中です。



センター活動の新拠点のご案内

京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1 (河原町五条下る東側)

「ひと・まち交流館 京都」地下1階

TEL 075-354-8701

FAX 075-354-8704

e-mail : machi.info@hitomachi-kyoto.jp

●開館日 (相談の受付等)

9:00 ~ 21:30 (月曜日~土曜日)

9:00 ~ 17:00 (日曜日・祝日)

●休館日

毎月第3火曜日 (国民の祝日にあたるときは翌日)

年末年始 (12月29日~1月4日)

なお、センターへのお越しの際は公共交通機関をご利用ください。



賛助会員の募集 (平成16年度分)

平成16年度の賛助会員を募集しています。

京都のまちづくりに貢献したい！センターの活動を応援したい！そんなあなたの熱意をお待ちしています。

【特典】

- ・ニュースレター (年4回・季刊) の送付
- ・冊子等センター発行物の割引
- ・ニュースレターでの活動紹介
- ・シンポジウム、セミナー等への優待

【年会費】

個人1口：5千円 団体1口：5万円

まちづくりフレンズの募集

地域のまちづくりに関する各種イベントや啓発・学習活動にボランティア・スタッフとして参加していただける方を募集・登録しています。